

研究紀要の掲載に寄せて

平成 25 年 10 月に「教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議」がまとめた「大学院段階の教員養成の改革と充実等について」（報告）では、「『学び続ける教員』を支援するため、養成は大学、採用・研修は教育委員会・学校というこれまでの役割分担から脱却し、教育委員会・学校と大学との連携・協働により、教員の養成・採用・研修の一体的な改革を行っていくことが極めて重要である」と提言しています。また、平成 25 年度静岡県総合教育センター協議会において、国立教育政策研究所の藤原文雄氏より、「センターは、行政と学校現場をつなぎ、さらには研究の世界と学校現場をつなぐ機能を備える必要がある」という御意見をいただきました。教育政策的な知見「行政知」と学校現場の実践に基づく知見「実践知」、そして大学等の確かな研究から生み出される「学術知」の三つを融合させるためのつなぎ役として、センターの重要性が改めて求められています。

本センターではこれまでも、大学の研究者を研究顧問に招いたり、研究協力校や協力員に実践を依頼したりし、学術的な知見と実践的な知見に基づいた研究を進めてきました。そして、この研究結果を基盤とした、研修や訪問指導の効果的な方法を探り、改善と充実を図っています。確かな「学術知」や「実践知」に裏付けられた研修や訪問指導の実現により、教職員の資質向上に寄与すべく取り組んでまいりました。

本年度もこうした考えの下、各課室班やそれを越えた組織において、今日的な教育課題についての実践的な研究等を行いました。本年度は特に、「客観的な確かさ」を持たせるため、学術的な検証や分析の方法に留意することに力を注ぎました。本紀要には、その中から最終年度のまとめの報告を掲載しています。

私たちの研究が、学校が直面する課題解決のために、少しでも役立つことができれば幸いです。

結びに、研究に際して御協力をいただきました学校及び関係教育機関の方々に厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

静岡県総合教育センター
所 長 三ッ谷 三善